

[課程－2]

審査の結果の要旨

氏名 真野 浩志

本研究は、四肢の先天性麻痺・欠損を有する小児における身体の認識について明らかにするため、二分脊椎児、先天性下肢形成不全児、先天性上肢形成不全児を対象に、自己の人物画を描出させる描画法、体の部位について言語を用いた質問を行う言語法、自己の写真を提示されたときにどこを見ているか測定する視線追跡法を行い、解析を試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 二分脊椎児の身体認識および身体知識の身体について、描画法、言語法、視線追跡法の結果の解析により、以下の結果を得た。
 - 1) 視覚入力は基本的に対照児と同等であるが、四肢への注意を促す指示をした際、二分脊椎の中枢神経合併症に起因すると考えられる注意障害の影響がみられる。
 - 2) **visuospatial body knowledge** は麻痺のある部位である下肢および、下肢と相同性のある上肢で低下がある。
 - 3) **lexical-semantic body knowledge** は麻痺のある部位である下肢および、下肢と相同性のある上肢で低下がある。

2. 下肢形成不全児の身体認識および身体知識の身体について、描画法、言語法、視線追跡法の結果の解析により、以下の結果を得た。
 - 1) 視覚入力では下肢への注意がむしろ高いが、四肢への注意の指示の効果は乏しい。
 - 2) **visuospatial body knowledge** は対照児と同等である。義足を自己の体の一部として認識している。
 - 3) **lexical-semantic body knowledge** は欠損のある部位である足部および、足部と相同性のある手部で低下がある。

3. 上肢形成不全児の身体認識および身体知識の身体について、描画法、言語法、視線追跡法の結果の解析により、以下の結果を得た。
 - 1) 視覚入力では上肢への注意がむしろ高いが、四肢への注意の指示の効果は乏しい。
 - 2) **visuospatial body knowledge** は欠損のある部位である手部で低下がある。
 - 3) **lexical-semantic body knowledge** は欠損のある部位である手部および、手部と相同性のある足部で低下がある。

以上、本論文は二分脊椎児、先天性下肢形成不全児、先天性上肢形成不全児において、描画法、言語法、視線追跡法の解析から、各疾患児の四肢の認識の特徴と、四肢の身体知識の低下を明らかにした。本研究はこれまで未知に等しかった。本研究の成果を四肢の先天性麻痺・欠損を有する小児におけるリハビリテーションに応用することで、運動発達促進や二次障害予防に貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。